

実践のまとめ（第1学年 社会科）

田上町立田上中学校 教諭 小林 弘幸

1 研究テーマ

歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究・解決する生徒の育成 ～学習のまとめ・振り返り活動をとおして～

2 研究テーマについて

(1) テーマ設定の意図

中学校学習指導要領（平成29年告示）では、「歴史に関わる事象の意味・意義や特色、事象間の関連を説明したり、課題を設けて追究したり、意見交換したりするなどの学習を重視して、思考力、判断力、表現力等を養うとともに、学習内容の確かな理解と定着を図ること」が求められている。そのために、単元などの内容や時間のまとまりを見通した「問い」を設定することや、「歴史的な見方・考え方」を働かせて課題を把握し、見通しをもって考察し、追究・解決に向かえるような学習の充実が必要だと考える。

これまでの自分の実践を振り返ると、歴史的事象のつながりや因果関係を捉えることにより生徒が歴史像を描けるよう、「単元を貫く学習課題」の工夫に努めてきた。しかし単元末には、歴史的事象の列挙に留まる姿、正しい用語を用いずに説明する姿、直前に学習した内容に偏って説明する姿などが見られ、歴史的事象を多面的・多角的に関連付けて歴史像を描く姿を十分には具現できていないと感じている。こうした姿は5段階評定で3以下の生徒で特に顕著であり、生徒が歴史的事象の名称だけを覚えるだけに留まり、事象の意義や事象間のつながりを意識できていないからではないかと考えている。そこで、日々の学習のまとめや小単元末の振り返り活動を充実させることを通して、客観的な事実を基に歴史像を追究する姿につながることを期待し、研究テーマを設定した。

(2) 研究テーマに迫るために

① 単元シートの工夫

複数の歴史的事象を多面的・多角的に関連付けた思考・判断・表現を促すために、単元シートを活用する。「単元を貫く課題」を常に確認しながら学びの蓄積を行い、今日の学びが歴史の大きな流れの中でどのような位置づけにあるのかを生徒が意識できるようにする。また、歴史的事象の推移や比較といった、「歴史的な見方・考え方」を働かせることを促す枠組みとする。

② 歴史的事象同士を関連付けた学習のまとめ

時代の特色を大きく捉え、多面的・多角的に歴史像を構築していくために、歴史的事象を関連付ける力を補強したいと考えている。単元末で課題を追究する場面において、正しい用語を適切に関連させて説明する姿を期待する。そこで、各時間のまとめの際、「単元を貫く課題」にせまるために重要だと考える用語を選択させるとともに、関連させて覚えておきたい用語を確認させて、記録するように促す。

③ 単元シートを活用した振り返り活動

多面的・多角的に追究する姿を期待し、小単元末に単元シートに蓄積した用語を活用してどのような時代と言えるかをネーミングさせる活動を取り入れる。

(3) 研究テーマに関わる評価

- ① 小単元末の振り返りを活用して、時代の特色を表現している生徒が 75%以上。
- ② 複数の歴史的事象を適切に関連させて、時代の特色を表現している生徒が 75%以上。

3 単元と指導計画

(1) 単元名

中世の日本と世界（中学社会 歴史 未来をひらく 教育出版）

(2) 単元の目標

- ・中世の日本の大きな流れを、世界の歴史を背景に、時代の特色を踏まえて理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べる技能を身に付けるようにする。
- ・中世の日本に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して多面的・多角的に考察したり、思考したことを説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。
- ・中世の日本について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養う。

(3) 単元の評価基準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・鎌倉幕府の成立、元寇などを基に、武士が台頭して主従の結び付きや武力を背景とした武家政権が成立し、その支配が広まったこと、元寇がユーラシアの変化の中で起こったことを理解している。 ・南北朝の争乱と室町幕府、日明貿易、琉球の国際的な役割などを基に、武家政治の展開とともに、東アジア世界との密接な関わりが見られたことを理解している。 ・農業など諸産業の発達、畿内を中心とした都市や農村における自治的な仕組みの成立、武士や民衆などの多様な文化の形成、応仁の乱後の社会的な変動などを基に、民衆の成長を背景とした社会や文化が生まれたことを理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・武士の政治への進出と展開、東アジアにおける交流、農業や商工業の発達などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、中世の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。 ・中世の日本を大観して、時代の特色を多面的・多角的に考察し、表現している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・中世の日本について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとしている。

(4) 単元の指導計画と評価計画（全 14 時間、本時 13/14 時間）

次 (時数)	学習内容	学習活動	主な評価規準と方法
1 次 (5)	<p>武士による政治は貴族の政治とどのような違いがあるのか</p> <ul style="list-style-type: none"> ・武士のおこり ・院政と平氏政権 ・鎌倉幕府のしくみ ・執権政治、承久の乱 ・鎌倉幕府の勢力拡大 ・鎌倉文化と新しい仏教 	<ul style="list-style-type: none"> ◎武士はどのように成長し、政治に進出したのだろうか。 ◎鎌倉幕府はどうやって勢力を伸ばしたのだろうか。 	<p>主体的に学習に取り組む態度</p> <p>鎌倉・室町時代について、小学校の学習や古代の学習を想起して、学習の見通しを立てている。 【単元シート】</p> <p>知識・技能</p> <p>諸資料から様々な情報を効果的に調べている。 【ノート、単元シート】</p>

2次 (4)	<p>大陸の動きは日本にどのような影響を与えたのか</p> <ul style="list-style-type: none"> ・元寇とその影響 ・南北朝の争乱と室町幕府のしくみ ・日明貿易、琉球王国 	<p>◎元軍の襲来は日本にどのような影響を与えたのだろうか。</p> <p>◎室町時代の日本は周辺地域とどのような関係を結んでいたのだろうか。</p>	<p>歴史的事象の意味や意義、文化の特色等について、理解を深めている。 【単元シート、テスト】</p> <p>思考・判断・表現 各次の学習課題について、学習内容を関連付けながら多面的・多角的に表現している。 【単元シート】</p>
3次 (3)	<p>民衆の成長は、社会や文化にどのような影響を与えたのか</p> <ul style="list-style-type: none"> ・産業の発達と民衆の成長 ・下剋上の世へ ・室町文化とその広まり 	<p>◎人々が力を付ける中で、社会にはどのような変化があったのだろうか。</p>	<p>主体的に学習に取り組む態度 中世の特色について追究しようとしている。 【単元シート】</p> <p>知識・技能 中世の歴史を大観し、その大きな流れや特色を理解している。 【単元シート】</p> <p>思考・判断・表現 中世の特色を多面的・多角的に考察し、表現している。【単元シート】</p>
4次 (2) 本時 1 / 2	<p>・中世について、学習事項を基に表現する</p>	<p>◎「中世」とはどのような時代といえるだろうか。</p>	<p>主体的に学習に取り組む態度 中世の特色について追究しようとしている。 【単元シート】</p> <p>知識・技能 中世の歴史を大観し、その大きな流れや特色を理解している。 【単元シート】</p> <p>思考・判断・表現 中世の特色を多面的・多角的に考察し、表現している。【単元シート】</p>

4 単元と生徒

(1) 単元について

この単元は12世紀ごろから16世紀ごろまでの歴史を扱い、日本の中世の特色を、世界の動きとの関連を踏まえて課題を追究したり解決したりする活動を通して学習することをねらいとしている。中世は武士の時代というイメージが強いが、周辺諸国の影響を強く受けた時代でもあり、諸産業の発達により民衆の成長が見られて文化や宗教の面でも民衆の姿が見えてきた時代でもある。古代の特色と比較したり、中世の歴史的事象を適切に関連させたりしながら、生徒が「中世の特色」を表現できるようにしたい。

(2) 生徒の実態（男子15名 女子13名 計28名）

本学級の生徒は、学級全体として前向きに学習活動に取り組んでいる。しかし、4月に実施したNRTでは歴史的分野、特に古代・中世を苦手としていることがわかった。また、歴史的分野の導入の際、鎌倉時代・室町時代については、「武士」「将軍」「元寇」「金閣」といった単語が出るにとどまり、中世の歴史の流れについては特に印象が薄いことがわかった。そこで、ここまでの学習では、生徒とのやりとりの中で、「いつ」「だれが」「なぜ」「どうなった」などの質問を投げかけ、歴史的事象を関連させることを促してきた。学習内容を結び付けて歴史像をつくり、言語化する力を高めていきたい。そこで、小学校で学習してくる「時代のポイント」「時代の転換点」を補いながら、小単元末の振り返り活動を行う。

5 本時の展開（令和7年10月30日実施）

(1) ねらい

- ・中世の歴史を大観し、その大きな流れや特色を理解する。
- ・古代の特色と比較したり、中世の歴史的事象を適切に選択して関連させたりしながら、中世の特色を多面的・多角的に考察し、表現する。

(2) 展開の構想

ここまでに、「武士の政治への進出と勢力拡大」「周辺諸国との関わり」「諸産業の発達と民衆の成長」「民衆の姿も見えてくる文化や宗教」について学びを繋ぎ、課題追究に向けて重要だと考える用語、その用語に関連させる用語、小単元末の振り返りを単元シートに蓄積している。これを参考にしながら、中世の特色を示す事象を選択させ、選択した意図を説明させることで、用語を適切に使用して言語化する力を育成したい。また、対話を通して意見を補強したり関連させたりして改めて言語化させることで、学びをより深める姿を期待する。

(3) 展開

時間 (分)	学習活動	教師の働きかけ 予想される生徒の反応	<input type="checkbox"/> 評価 <input type="checkbox"/> 支援 <input type="checkbox"/> 留意点
導入 5	○本時までの学習の振り返り	・ここまでの小単元で振り返ってきた内容を確認する。	
展開 ① 40	○学習課題の確認 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">学習課題：「中世」とはどのような時代だといえるだろうか。</div> ○単元シートをもとに、中世の特色を示す事象を選択する。 ○構想を意見交流させ、アドバイスをもらおう。 ○個人で学習課題について考えをまとめる。	(1)悩んでいる生徒へ ・単元シートを確認しながら、印象が残っている事象を尋ね、教科書等を確認させる。 (2)早く選択した生徒へ ・古代の特色と比べ、どのような変化があるか考えさせる。 ・3人グループを組織する ・構想を交流する中で、説明に取り入れたら良さそうな用語をアドバイスするよう指示する ・学習課題について個人で表現させる。	<input type="checkbox"/> 中世の特色を示す事象を選択し、その事象を選択した理由を記述している。(知・技) <input type="checkbox"/> 古代の振り返りを見返すよう促す。 <input type="checkbox"/> 思考ツールとして、くらげチャートを使用する。 <input type="checkbox"/> 中世の特色について、多面的・多角的に考察し、根拠をあげながら考えをまとめている。(思・判・表)
まとめ 5	○次時への見通しをもつ。		<input type="checkbox"/> 似ている／異なる事象に着目している生徒同士で交流できるよう、2通り班編成する。

(4) 評価

	知識・技能	思考・判断・表現
A	中世の特色を示す事象を選択し、古代の特色と比較しながら、その事象を選択した理由をある程度具体的に記述している。	中世の特色について、3つ以上の事象を適切に関連付けながら、多面的・多角的に考察し、ある程度具体的に根拠をあげながら考えをまとめている。
B	中世の特色を示す事象を選択し、その事象を選択した理由をある程度具体的に記述している。	中世の特色について、1～2つの事象を根拠として「中世とは〇〇な時代である」と考えをまとめている。
C	Bに満たない	Bに満たない

6 実践を振り返って

(1) 授業の実際

生徒はここまでに3つの小単元を学習し、それぞれの小単元末に対話を通した振り返り活動を行ってきた。その中で、時代を語る上で必要な語句として『封建制度』『元寇』『二毛作』を挙げてきた。これらの語句をキーワードとして、小単元末に学級で整理して作られた文章が表1である。

<表1>

武士たちがまとまる時に大切だったしくみが『封建制度』という主従関係です。これによってできた鎌倉幕府は将軍が絶えてピンチでしたが、承久の乱に勝ち、封建制度が強まり、武士の影響が全国に広まっていきました。
モンゴルが大きくなる中で日本にも攻めてきて『元寇』が起きました。追いついたけれど幕府と御家人の関係がくずれ、鎌倉幕府をほろぼした後醍醐天皇も武士を軽く見た政治をし、武士を守るために室町幕府が作られていきました。
『二毛作』などで生産力が上がり、人々に余裕が出てきました。中には売るものを作る人も出てきて、定期市のように売り買いすることも増えてきました。

これらのキーワードを確認した後、くらげチャート(図1)を用いて中世の特色を示す事象を選択させた。単元シート(図2)に、自身が重要だと考える用語、その用語に関連させる用語を蓄積してきており、これを参考にして事象を選択しながら思考する姿が見られた。

構想を意見交流する場面では、用語の選択や選択した用語同士の関連についてアドバイスし合う姿が見られた。しかし、あらかじめ考えをまとめてからの交流となった生徒も多く、くらげチャートの使い方や交流のタイミングについて工夫や改善が今後の課題となった。

個人で学習課題について考えをまとめる場面では、単元シートやくらげチャートを活用し、中世の特色を示す事象を選択して文章化しようとする姿が見られた。すべての生徒が歴史的な事象を何らかの形で用いて記述していた。用語の羅列ではなく、時代を比較したり推移を捉えたりしながら、250～400字程度で文章化していた。

(2) 研究テーマに関わる評価

- ① 「中世」を説明するにあたって、すべての生徒が歴史的事象を何らかの形で用いて記述していた。また、用語の羅列ではなく、時代を比較したり推移を捉えたりしながら、200～350字程度で文章化することができた。小単元末の振り返りの活用状況は表2のとおりである。

<表2>

◆ 政治面、外交面、文化・社会面に関連する用語の活用状況

『封建制度』をはじめ、政治面に関連する用語を使用した生徒	92.9%
『元寇』をはじめ、外交面に関連する用語を使用した生徒	57.1%
『二毛作』をはじめ、文化・社会面に関連する用語を使用した生徒	32.2%

◆ 生徒Aの記述

中世は「生活の安定を求めた」時代である。武士が登場して上皇や貴族のもとで戦いで力を付けていき、鎌倉幕府ができると御恩と奉公で結ばれた封建制度がつけられていった。しかし、元寇で封建制度がくずれて御家人の生活が不安定になると後醍醐天皇につく、建武の新政で不満が高まると足利尊氏につくとといったように安定を求めて変わっていった。村でも二毛作や肥料などで生産力が上がると、余裕ができたり定期市で売り買いされたりして自治を行う惣ができてきて、生活がよくなった分、悪くなったら一揆して安定を求めて動いたりしていた。(250字)

各時間のまとめや小単元末の振り返りは、時代の特色を説明するにあたり、歴史的な用語を用いて表現する姿につながると考える。しかし、政治面に関する用語、特に鎌倉時代の内容の出現率が高かったように感じる。学習内容の量の差もあり、政治面と比較して、外交面や文化・社会面の印象が薄かったのではないかと考えられる。

- ② 「中世」を説明するにあたって、すべての生徒が複数の歴史的事象を用いて記述していた。表2をさらに分類したものが表3である。

<表3>

【政治面】【外交面】【文化・社会面】を関連させて記述している生徒	17.9%
【政治面】【外交面】を関連させて記述している生徒	35.7%
【政治面】【文化・社会面】を関連させて記述している生徒	7.1%
【外交面】【文化・社会面】を関連させて記述している生徒	3.6%
【政治面】に関連する内容だけで記述している生徒	32.1%
【外交面】に関連する内容だけで記述している生徒	0%
【文化・社会面】に関連する内容だけで記述している生徒	3.6%

今回の手立ては、①と同様に有効であったと考える。しかし、1つの側面からだけで記述する生徒が1/3程度おり、単元のまとめ(本時)の手立てに工夫が必要であった。

(3) 今後の課題

- ① 歴史的な見方・考え方を働かせた多面的・多角的な考察について

多面的・多角的に時代の特徴を捉えて表現する力を高めたい。小学校の学習指導要領では「多角的」という表現になっており、「多面的」な考え方に不慣れな生徒も多いと改めて感じた。近世になると「政治面」「外交面」「文化・社会面」に加えて、経済的な側面も大

きくなる。また、世界に視野を広げた多角的な考え方も必要になってくる。多面的・多角的に歴史を捉えられるよう、授業を構成していきたい。

一方で、歴史的な見方・考え方を働かせて思考できる生徒も増えてきている。自身で整理する力を高めるために、枠をシンプルにした単元シートも用意して、自己決定の機会を増やすことも検討していきたい。

② 思考ツールの使い方や交流のタイミングについて

今回の実践では、くらげチャートの足を5つ用意しておいたが、5つすべてを埋めて考えを整理した後に意見交流となった生徒もいた。また、5つの足に関連付けが難しい用語を入れて收拾がつかなくなる生徒、あるいは、人物名や戦いなど同じジャンルの用語を選択して最終的な記述内容が特定の側面に偏った生徒もいた。これらを改善するために、チャートの足の個数を調整する、意見交流の際にチャートの足を増やす、用語選択の際に制限をつけるなどが考えられる。どの思考ツールを選択し、どのように使用していくかについて、今後も追究していきたい。

7 参考文献等

- ・文部科学省『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 社会編』（東洋館出版社）
- ・国立教育政策研究所教育課程研究センター『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 中学校社会』（東洋館出版社、2020年）
- ・川端裕介『見方・考え方を働かせる発問スキル50』（明治図書、2021年）